

花のお江戸を歩く会

そうだ！小京都へ行こう！！

「谷中～ひぐらしの里散歩」

緊急連絡＝070－5019－4033(管理人:伊藤)

＜散歩コースの紹介＞

町全体がいまだに江戸の香りを残しているのが谷中・日暮里です。徳川家康の江戸の町の大改造に伴い、江戸城周辺や神田などにあった数多くの寺を、谷中・日暮里方面に移しました。震災や戦災を逃れた谷中・日暮里には現在でも約70の寺社が町の営みやそこに住む人々の生活と調和して静かに佇んでいます。超近代都市「東京」に残された「小京都」とも言われています。

谷中は上野台地と本郷台地の谷の中にあることが地名の由来です。月見寺、花見寺、雪見寺など四季に応じた美しい町の姿を一日中眺めていても飽きることがなく日が暮れていく、といったことが日暮里の本当の地名の由来のようです。江戸の香りを色濃く残す谷中散歩を楽しみましょう。

＜具体的な散歩コース＞

日暮里駅西口→本行寺(月見寺)→経王寺(上野戦争痕跡)→延命院(大奥スキヤンダル)→養福寺(江戸俳句発祥の地)→富士見坂→浄光寺(雪見寺)→諏方神社→青雲寺(花見寺)→修性院(花見寺)→法光寺→南泉寺(團十郎ゆかり)→夕焼けだんだん坂→谷中銀座商店街→宗林寺(萩寺)→岡倉天心記念公園→大円寺(笠森お仙縁)→全生庵(勝海舟縁)→安立院→観音寺と築地堀→朝倉彫塑館→【ランチタイム】→天王寺→谷中五重塔跡→徳川慶喜墓所→東叡山浄名院(八万四千体地藏)→旧吉田屋酒店(台東区下町風俗資料館附属展示場)→大雄寺(高橋泥舟縁)→感応寺の大楠→愛染院→瑞輪寺(徳川家康縁)→谷中シマラヤ杉(谷中のシンボル)→蓮華寺→三浦坂→JR日暮里駅(解散)

＜個別ガイド＞

① 本行寺(月見寺)

日蓮宗のお寺です。太田道灌の孫の太田資高が大永6年(1526)に江戸城内平河口に建立し、江戸時代に神田、谷中を経て、宝永6年(1709)に現在の地に移転しました。景勝の地であったことから「月見寺」とも呼ばれており、周辺に花見寺(青雲寺)、雪見寺(浄光寺)などの寺院もあり、風流を好む江戸の文人墨客が集まったことで知られます。20世日桓(号一瓢)が小林一茶と親交があり、境内には、一茶の句碑のほか種田山頭火の「ほっと月がある 東京に来てゐる」の句碑があります。また、幕末から明治時代に活躍した

永井尚志や儒学者の市河寛齋・米庵親子の墓などもあります。→御院殿坂

② 経王寺(上野戦争痕跡)

明暦元年(1655)創建の日蓮宗の寺院で大黒山と号し、境内の大黒堂には日蓮上人作という大黒天が祀られています。旧谷中七福神のひとつです。慶応4年(1868)の上野戦争に敗れた彰義隊士がここへ隠れたため、新政府の攻撃を受けました。天保7年(1836)建立の山門には銃撃を受けた弾痕が今も残り、当時の激しさを今に伝えています

③ 延命院(大奥スキャンダルの寺)

四代将軍徳川家綱の乳母三沢局を開基とする日蓮宗の寺院です。家綱の安産祈願をした日長が甲州身延山の七面大明神を勧請し、慶安4年(1651)にその別当として開創されました。境内には、樹齢600年を越える東京都指定天然記念物の大椎があります。

徳川家斉の時代、西の丸大奥の御中臈・梅村の部屋方であった「ころ」という奥女中が大奥に入る以前から延命院の元歌舞伎役者の僧侶日潤と交際し、日潤が奥女中と密接な関係を作る手助けをした。享和年間この寺に来山した日道は美貌の持ち主で幕府の奥女中らと関係を持ったことから寺社奉行脇坂安董に摘発され、1803年(享和3年)死罪に処せられた。「ころ」と日潤の関係も、のちに発覚して捕えられ、「ころ」は大奥を追われた。

④ 養福寺(江戸俳句発祥の地)

真言宗豊山派の寺院で、江戸初期元和6年(1620)の開山、木食義高の中興と伝えられています。赤くそびえる仁王門は、宝永年間(1704から1711)の建立と伝え、門の裏側には広目天と多聞天の二天王像が安置されています。江戸時代初期に活躍した俳人西山宗因の「梅翁花樽碑」をはじめとする談林派歴代の句碑、柏木如亭の碑、自堕落先生の墓などがあります。→富士見坂

⑤ 浄光寺(雪見寺)

真言宗豊山派の寺院で、太田道灌説と豊島左衛門尉経泰説があります。江戸時代までは、諏訪神社の別当でした。諏訪台の高台に位置し、展望が開け眺めが良く雪見に適することから「雪見寺」とも呼ばれていました。この近辺には、月見寺(本行寺)、花見寺(青雲寺)などの寺院もあり、風流を好む江戸の文人墨客が集まったことで知られています。

江戸時代、将軍が鷹狩の際に立寄ってから御膳所にあてられ、将軍が来訪した時に腰掛けたとされる「将軍の腰掛けの石」という碑が本堂裏にあります。

また、山門の左手には、元禄4年(1691)に空無上人によって江戸の東部6カ所に開眼された江戸六地藏の3番目として知られる大きな銅造地藏菩薩立像、文化6年(1809)作の銅造地藏菩薩坐像、庚申塔等の石造物があります。

⑥ 諏方神社

鎌倉時代に豊島佐衛門尉経泰(豊島氏頭目・石神井城城主)によって創建されたと伝えられ、信濃国上諏訪大社と同じ建御方命を祀ります。現在も日暮里(旧:新堀)・谷中の総鎮守として広く信仰を集めています。諏方神社は諏訪台にあり、江戸時代には、筑波や日光の連山などが見えたことから、景勝の地として知られていました。→太平洋美術会→西

日暮里公園→問の坂

⑦ 青雲寺(花見寺)

この辺りは、江戸時代の中頃から「ひぐらしの里」と呼ばれ、江戸近郊の行楽地として賑わい、また、青雲寺は、江戸時代に花見の場所として賑わったことから、「花見寺」とも呼ばれていました。月見寺(本行寺)、雪見寺(浄光寺)などの寺院もあり、風流を好む江戸の文人墨客が集まったことで知られています。境内には「南総里見八犬伝」の作者として有名な滝沢馬琴の筆塚の碑や硯塚の碑などがあります。また、谷中七福神の一つである恵比寿神が祀られています。

⑧ 修性院(花見寺)

修性院は、青雲寺とともに花見寺とも呼ばれています。浮世絵師・歌川広重の「名所江戸百景」日暮里寺院の林泉は、ここの境内の春景色が描かれています。また、谷中七福神の一つである「ひぐらしの布袋」が祀られています。寺の塀には、四季をモチーフにした布袋尊のイラストが描かれており、道行く人々に親しまれています→**法光寺→六阿弥陀道**

⑨ 南泉寺(團十郎ゆかり)

臨済宗妙心寺派の寺。元和2年(1616)徳川家から境内3200余坪を拝領し大愚が開創した。その後、将軍家光・家綱に仕えた老女岡野の遺言により貞享3年(1686)朱印地30石を賜った。

本堂内の木造聖観音立像は、美濃遠山氏の念持仏。厨子に遠山氏の家門、「遠山家 息心庵本尊、正観音菩薩、安政四年丁巳七月十日」の銘がある。上半身等に江戸期の補修が加えられているが、鎌倉期の作と推定される。その他、善光寺式阿弥陀三尊の一部と思われる銅造菩薩立像を所蔵。境内には、菅谷不動、講談師松林伯円の墓等がある。→**夕焼けだんだん坂→谷中銀座商店街**

⑩ 宗林寺(萩寺)

徳川家康の茶道の師であったとされる斎藤宗林を開基として、天正7年(1579)駿府で創建された。その後、家康の江戸入府に従い、神田昌平橋外に寺地を与えられて移転したという。現在も静岡に妙祐山宗林寺がある。その後、上野東寺町へ移り、さらに元禄14年(1701)現在地に移転したという。江戸時代は本所の法恩寺、浅草田甫の幸龍寺とともに京都・本圀寺の江戸触頭であった。このあたりは「蛍沢」と呼ばれた蛍の名所であり、また萩の名所で「萩寺」とも呼ばれた。今も境内には多くの萩が植えられている。

⑪ 岡倉天心記念公園

岡倉天心記念公園は、横山大観らと日本美術院を創設し、日本の伝統美術の復興に努力した岡倉天心の邸宅兼、日本美術院跡に台東区が作った公園で、昭和42年(1967)に開園しました。約700平方mの小さな公園です。園内には岡倉天心を記念した六角堂が建ち、堂内には平櫛田中作の天心坐像が安置されています。→**谷中防災センターT→三崎坂**

⑫ 大円寺(笠森お仙縁)

浮世絵師鈴木春信の美人画のモデル、笠森お仙と瘡守稻荷の寺。境内には、永井荷風が

碑文を書いたという「笠森お仙の碑」があります。鈴木春信のよって、一躍注億を浴びたのですが、鈴木春信もお仙というモデルを得たことで、その才能を開花させたというところが面白いところ。瘡守稲荷の方は、本堂が法華経と稲荷の二つのために、それぞれの玄関が並んだ構造。神仏分離令をかいぐるための苦肉の策でこの形になったそうです。

⑬ 全生庵(山岡鉄舟ゆかり)

1883年(明治16年)山岡鉄舟が維新の際、国事に殉じた人々の菩提を弔うため建立した禅刹。境内墓地に山岡鉄舟、人情話の名人三遊亭円朝ほか知名人の墓が多い。

⑭ 安立院

寛永7年創建の日蓮宗寺院 安立寺。明治期の画家下村観山の墓所。観山は、加納芳崖、橋本雅邦に師事した。東京美術学校教授を努めたり、岡倉天心の日本美術院創立に参加するなど、同次代の菱田春草、横山大観らと活躍したという。また、茶道江戸千家初代宗主川上白の菩提寺であるらしい。→谷中築地堀

⑮ 観音寺

築地堀のある観音寺は、慶長年間創建の真言宗寺院だ。神田北寺町から延宝8年に移転し長福寺と称していたが、享保元年に観音寺と改称されたとある。赤穂浪士ゆかりの寺でもある。なんでも、当時の「朝山和尚」が、赤穂浪士の「近松行重」「奥田行高」と兄弟で、この寺では、メンバーによるミーティングが度々行われていたのだと言う。また、討入り後には赤穂浪士供養塔が建てられたともある。→朝倉彫塑館→[ランチタイム]

⑯ 天王寺

天王寺は鎌倉時代の創建といわれ、都内有数の古寺です。江戸時代には、徳川家光・春日局の外護を受け將軍家の祈祷所となる。また「富くじ」興行があり、目黒の龍泉寺(目黒不動)、湯島天神と共に公許の江戸三富と呼ばれて賑わいました。幸田露伴の「五重塔」のモデルとなった天王寺五重塔は昭和32年(1957)に焼失しましたが、その跡地は今も谷中霊園に残っています。天海大僧正の差配かどうかは不明だが、当寺が寛永寺の北にあることから、比叡山延暦寺の北にある鞍馬寺に倣い毘沙門天を本尊とし、寺名も感応寺から天王寺に改められた。この寺名は毘沙門天王に由来する。→谷中墓地→谷中五重塔跡

⑰ 徳川慶喜墓所

円墳状の墓で、慶喜とその妻の墓が並んでいます。慶喜は華族の最高位である「公爵」を与えてくれた明治天皇に感謝の意を表すため自分の葬儀を仏式でなく神式で行うよう遺言を残したため、一般皇族と同じような円墳が建てられました。

⑱ 東叡山浄名院(へちま寺・八万四千体地藏)

上野寛永寺36坊の一つとして創建されたお寺。8万4千体地藏といわれる、たくさんの石のお地藏様が並んでいます。傘をさした大きなお地藏様が鎮座。江戸六番のお地藏様です。「へちま供養」で著名。「せき・ぜんそく」の効験あらたかという。→旧吉田屋酒店(台東区下町風俗資料館付属展示場)

⑲ 大雄寺(高橋泥舟縁)

大雄寺は日蓮聖人が開基となり慶長9年（1604年）神田土手下に創建され万治元年（1658年）に現在の場所に移転された。境内には剣術家として有名な「高橋泥舟」のお墓が有る。泥舟は、剣術だけでなくいろんな分野で活躍し「勝海舟・山岡鉄舟」と並び「幕府の三舟」と言われる。境内にある巨木で都内で一番大きいクスノキといわれています。幹回り6.2m、樹高13m、枝張12mで推定樹齢200～300年です。→**感応寺(大楠)**

→**愛染院→谷中シマラヤ杉(谷中のシンボル)→蓮華寺→三浦坂**

㊦ 瑞輪寺

開山の慈雲院日新上人は、徳川家康が幼少の頃、学問の師であった。天正6年（1578）身延山の第17世となる。

天正10年（1582）織田信長とともに甲州の武田氏を討った徳川家康は身延山に参拝し、日新に弘通所を寄進することを約束した。その後、江戸へ移った家康は、同19年（1591）その約束を果たして日本橋馬喰町に寺地を寄進、大久保主水の外護により瑞輪寺が創建された。その後、慶長元年（1596）に火災のため焼失、同6年（1601）神田に移転、さらに慶安2年（1649）現在地に移転した。

江戸時代は下谷の宗延寺（現在は杉並区堀ノ内）、善立寺（現在は足立区梅田）とともに身延山久遠寺の江戸触頭であった。また潮師法縁（六牙院日潮上人を縁祖とし、飯高檀林から発生した日蓮宗最大の法縁）の縁頭寺である。

明治元年（1968）上野戦争のために堂宇等灰燼に帰し、その後、歴代住職によって再建復興された。かつては15坊の塔頭があったというが、現在は5院のみである。平成18年（2006）本山（由緒寺院）に昇格。

江戸十大祖師に数えられる安産飯匙祖師は、もともと感応寺（現在の天王寺）に伝えられていたものである。文永11年（1274）佐渡流罪を赦された日蓮聖人が佐渡から鎌倉に向かう途中、武蔵国叅川のあたりを通りかかった時、関善左衛門という者が難産の妻の救いを求めた。そこで日蓮聖人は飯匙に題目をしたためて妊婦の腹をさすり、抱かせて祈念すると、無事に安産したという。善左衛門一家は一家を挙げて日蓮聖人に帰依し、その尊像を謹刻して谷中に善性寺を建立した。以来、厄除・安産救護の靈験により信仰を集めたという。

その後、祖師像は感応寺に伝えられたが、元禄11年（1698）幕府による不受不施派の弾圧により天台宗に改宗させられた際、瑞輪寺に遷された。現在は境内東側の通りに面した祖師堂に祀られている。→**谷中寺町通→初音通り→谷中墓地→JR日暮里駅南口(解散)**